

杏林医学会学生リサーチ賞受賞報告

石川 駿 伊勢 将大 遠藤 恵美 假谷 玲維
佐藤 幸平 菅野 直大 土橋 若奈 中澤 真理花

杏林大学医学部医学科Lグループ

【目的】

三鷹市の医療・福祉についての理解を深め、医師に対して地域が求めているニーズを理解すること。そのために我々のグループは「地域包括支援センター」をテーマに設定して調査を行う。

【方法】

インタビューにより情報収集を行い、その中から重要な事柄を抽出し、それについて考察した。インタビュー先は三鷹市役所、三鷹市新川中原地域包括支援センター、三鷹市三鷹駅中心地域包括支援センター、三鷹市連雀地域包括支援センターである。インタビュー内容は三鷹市の福祉や人口構成等の現状、地域包括支援センターの業務内容、医療施設との連携、現状の課題等であった。

【結果】

3つの施設でのインタビューで共通して話題に上がったことの一つは、「他職種連携」であった。センターには保健師や主任ケアマネージャー、社会福祉士が在勤しているが、彼らだけでは判断が難しく、医師や看護師の助けが必要となる状況も多くあると伺った。

もう一つ、3つの施設での共通の話題は、「認知症」であった。認知症の方の介護についての相談や病院への付き添いなどもセンターの業務には含まれている。ここでの問題は、認知症の方や認知症と疑われる方の所へ訪問した際に、医療関係者がいないと適切な判断や対処が出来ない状況があるということであった。ここにはさらに、社会の高齢化が進み高齢者のみの世帯数が増加し、処置がなされないまま症状が悪化するという問題が加わってきている。

【考察】

これらの問題を解決するには、センターの職員と医療関係者が互いの専門分野についての理解を深めるための勉強会をもっと活発に行うことと、私達学生が今のうちからチーム医療に目を向け、将来チームの一員としてどのように地域の福祉に関わっていくかを考えておくことが重要である。また、三鷹市は認知症にやさしい街づくりを目標としており、三鷹武蔵野もの忘れ相談シートや三鷹市もの忘れ相談医制度、見守りネットワーク事業、キャラバン・メイトといった制度や事業を行っている。これらを我々が認知し周囲に情報を発信することで、認知症にやさしい街づくりに貢献できるのではないだろうか。